

マグネシウム地金2009年需要実績／2010年需要予測

(単位:トン)

	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	09/08%	2010(予測)	対前年比 %
ダイカスト	8,769	9,334	9,633	9,930	9,640	7,684	5,493	71.5%	6,400	116.5%
鋳物	97	97	80	95	109	92	120	130.4%	100	83.3%
マグネ射出成形	2,857	1,562	1,565	1,261	1,030	587	328	55.9%	350	106.7%
その他合金	760	1,091	1,051	1,091	1,116	905	342	37.8%	700	204.7%
構造材小計	12,483	12,084	12,329	12,377	11,895	9,268	6,283	67.8%	7,550	120.2%
アルミ合金添加	19,014	19,128	18,312	18,694	20,237	20,124	17,552	87.2%	19,500	111.1%
鉄鋼脱硫	3,209	7,384	9,922	9,041	9,048	7,859	4,075	51.9%	6,000	147.2%
ノジュラー鋳鉄	1,245	2,543	1,534	2,548	2,526	2,352	2,238	95.2%	2,500	111.7%
チタン製錬	248	539	420	525	584	724	600	82.9%	300	50.0%
添加材小計	23,716	29,594	30,188	30,808	32,395	31,059	24,465	78.8%	28,300	115.7%
粉末・その他	5,439	4,093	3,066	2,823	2,286	1,795	1,241	69.1%	1,200	96.7%
内需小計	41,638	45,771	45,583	46,008	46,576	42,122	31,989	75.9%	37,050	115.8%
輸出	180	313	395	1,011	859	891	567	63.6%	700	123.5%
総需要	41,818	46,084	45,978	47,019	47,435	43,013	32,556	75.7%	37,750	116.0%
総供給(輸入)量	47,506	52,402	47,810	50,418	49,041	45,459	28,097	61.8%		

(出典:日本マグネシウム協会調べ)

<2009年の需要実績>

- ①2008年後半から始まった世界的な経済不況の影響を大きく受け、2009年の全体需要量は32,556トンと前年比24.3%減となった。
- ②2009年の総供給量が28,097トンと前年比39.2%の大幅な減少となったことから、4,000トンを超す需給バランスの改善となった。
- ③部門別では、マグネシウム合金を主として使用する構造材需要が6,283トンと32.2%の大幅減、純マグネシウムを利用する添加材部門では24,465トンと同21.2%減、粉末・その他部門が1,241トン30.9%減となった。構造材部門の大幅な減少は、国内における自動車生産の落込みによるものと見られる。

<2010年の需要予測>

- ①2010年のマグネシウム需要は、世界的な経済回復の効果もあり着実に改善されるものと期待され、4万トンまでは回復しないものの全体で37,750トンと前年比16.0%増になると予測している。
- ②部門別では、鋳物及びチタン製錬の2部門を除き全ての部門で回復すると予測しており、構造材部門では最盛期に比較し6割程度の水準であるが、7,550トンと前年比20.2%増の回復を見込んでいる。添加材部門は全体で28,300トン前年比15.7%増と見込まれ、内訳はアルミ合金添加が19,500トン11.1%増、鉄鋼脱硫6,000トン47.2%増、ノジュラー鋳鉄2,500トン11.7%増などと予測している。